

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地							
新東京歯科技工士学校	平成22年4月1日	福原 達郎	〒143-0016 東京都大田区大森北一丁目18番2号 (電話) 03-3763-2211							
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地							
学校法人 東京滋慶学園	昭和61年2月1日	中村 道雄	〒143-0016 東京都大田区大森北一丁目18番2号 (電話) 03-3763-2211							
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士						
医療	歯科技工士 専門課程	歯科技工士科Ⅱ部	平成22年文部科学省告示 第五十三号							
学科の目的	歯科技工士科Ⅱ部は患者の笑顔と健康をサポートできる、基本が徹底的に強い、凜とした医療人(歯科技工士)を養成します。									
認定年月日	平成26年 3月31日									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位 数	講義	演習	実習	実験				
3 年	夜間	2205時間	875時間	0時間	1330時間	0時間				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数					
105人	44人	0人	4人	27人	31人					
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～翌3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 成績評価は試験結果、出席状況、実習作品で評価する					
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:8月の3週間 ■冬季:12月下旬～翌年1月の2週間 ■学年末:3月の3週間			卒業・進級 条件	■成績評価 C以上 ■出席日数・取得時間数 授業時間数の2/3以上の出席が必要					
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任から家庭への定期的な電話 連絡の他に、必要に応じて、個人面談、第三者面談を実施する。			課外活動	■課外活動の種類 ・歯科技工士会と連携した 研修会の開催 ・各種講習会、テンタルショー、学会の参加  ■サークル活動: 有					
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) 歯科技工所、歯科診療所、大学歯科病院、歯科機材メーカー  ■就職指導内容 学内合同就職説明会や人事採用ご担当者を招き、情報提供に努めている。  ■卒業者数 19 人 ■就職希望者数 17 人 ■就職者数 17 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 89.5 %  ■その他  (平成 29 年度卒業者に関する 平成30年5月1日 時点の情報)			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業者に関する平成30年5月1日時点の情報)  資格・検定名 種 受験者数 合格者数 歯科技工士免許 ② 19人 19人					
中途退学 の現状	■中途退学者 7 名 平成29年4月1日時点において、在学者50名 (平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31時点において、在学者43名 (平成30年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 病気、進路変更  ■中退防止・中退者支援のための取組 電話連絡・個人面談・第三者面談実施及びSSC(学校カウンセラー)との連携強化			■中退率 14 %	※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当する 記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)  ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等					
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・特待生制度(入学前の成績優秀者への学費減免)・スカラシップ制度(在校生向け学校独自指標優秀者への学費減免) ・被災罹災者学費減免 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象外									
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無									
当該学科の ホームページ URL	URL: <a href="http://www.dt.ntdent.ac.jp">http://www.dt.ntdent.ac.jp</a>									

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをおいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留学生」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な收入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界が求める人材用件(知識・技術・人間性等)を明確にし、企業・業界団体等の意見を活かし、必要となる最新の知識・技術を反映するための場とし、次年度カリキュラムに活かしていく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員規程 第7条に基づき、

委員長は、学校が編成した教育課程案を委員会に付議し、委員会による改善意見を校長に報告しなければならない。また、校長は、前項の報告を活かした教育課程を決定し、委員会に告知するものとする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年5月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
西澤 隆廣	公益社団法人日本歯科技工士会	平成30年4月1日～平成32年3月31日	①②
菅沼 佳一郎	株式会社 三和デンタル(大田区)	平成30年4月1日～平成32年3月31日	③
森野 隆	公益社団法人日本歯科技工士会	平成30年4月1日～平成32年3月31日	①②
星野 世一	株式会社 ワールドラボ	平成30年4月1日～平成32年3月31日	③
福原 達郎	新東京歯科技工士学校 校長	平成30年4月1日～平成32年3月31日	
三觜 雅子	新東京歯科衛生士学校 副校長	平成30年4月1日～平成32年3月31日	
高平 敦	新東京歯科技工士学校 事務局長	平成30年4月1日～平成32年3月31日	
今井 リカ	新東京歯科技工士学校 教務部長	平成30年4月1日～平成32年3月31日	
小島 三知長	新東京歯科技工士学校 学部長	平成30年4月1日～平成32年3月31日	
富野 浩子	新東京歯科技工士学校 学科長	平成30年4月1日～平成32年3月31日	

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回 5月 11月

(開催日時)

第1回 平成30年5月29日 18:30～20:00

第2回 平成30年11月予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

①歯科業界のデジタル化に対応できるよう、「デジタル歯科技工概論Ⅰ、Ⅱ」「デジタル歯科技工実習」の2科目を新しく追加。

CAD/CAM機器を用いた実習授業を実施し、基本的な操作ができる歯科技工士を養成する。

②早期離職を防止するために、卒後2ヶ月後(6月中旬)に、同窓会に協力を得て同期会を実施。

今抱えている問題について個別にアドバイスし、明日からの仕事に活かせる技術セミナーを開催。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

在学中に、様々な臨床実習や歯科技工士の働き方を知ることにより、卒業後の進路決定や将来像の参考になるような機会とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

キャリアデザインⅠでは連携している企業の歯科技工士、歯科医師に来校していただき、実際にどのような働き方をしているか、歯科治療における歯科医師、歯科技工士の連携について講演していただいている。

キャリアデザインⅡでは連携している企業の経営者側の方に来校していただき、どのような人材が企業にとって必要か、講演していただいている。受講後学生はレポートを提出し、その内容により評価を行っている。

デジタル歯科技工概論Ⅰでは、歯科器材メーカーの歯科技工士の方に来校していただき、メーカーごとのデジタルに対する取り組み、今後の動向について、講演していただいている。

デジタル歯科技工概論Ⅱでは、歯科技工所の歯科技工士の方に来校していただき、実際に歯科技工所でどのようにデジタル歯科技工を取り入れているか、講演していただいている。受講後学生はレポートを提出し、その内容により評価を行っている。

デジタル歯科技工実習では、過去から現在、未来への歯科技工のデジタル化の流れをレクチャーいただき、本校のCAD/CAMシステムを用いて、実際に補綴物をデザイン、削りだしを行い、技工物を製作する。完成後その作品によって評価を行っている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
キャリアデザインⅠ	様々な臨床現場や歯科技工士の働き方を知り将来像を明確にする。また、就職活動に必要な履歴書の書き方、職場見学のマナーを学び実践する。	金子歯科医院
キャリアデザインⅡ	卒業生講演や就職講座を通して現場で求められる歯科技工士像を明確にし、卒業後の進路決定の参考にする。	QLデンタルメーカー(株)、(株)ギコウ、(株)三和デンタル、(株)ワールドラボ
デジタル歯科技工概論Ⅰ	各メーカーのCAD/CAMシステムを知り、最先端のデジタル歯科技工技術についての基本を学ぶ。	(株)松風、(株)データデザイン、シロナデンタルシステムズ(株)、
デジタル歯科技工概論Ⅱ	各技工所におけるCAD/CAMシステムの活用を知り、デジタル歯科技工技術の現状について学ぶ。	YAMAKIN(株)、Irodori、こばやし歯科クリニック、
デジタル歯科技工実習	CAD/CAMなどの最先端のデジタル歯科技工技術について学ぶ。また、CAD/CAM操作を体験し、デジタル歯科技工に対応できる現場力を養う。	(株)STLデザイン、(株)ジーシー、アスパイア

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

業界と連携し、学会発表のための共同研究や企業主催の研修に積極的に参加する。

学部長、学科長を中心に年間の研修を企画し、上記の研究成果や研修で得られた知識を学内で共有する。

※教員研修規程からの抜粋

第2条 研修は、教員の授業内容・方法及びクラス運営方法を改善し向上させるとともに、マネジメント能力を含む指導力の習得、向上させるために行う。

第4条 法人本部並びに学校は、教員の研修計画を策定、実施し、教員に研修を受ける機会を与えなければならない。

2 法人本部または学校が必要と認めるとき、他の機関と共同または委託し、研修を行うことができる。

第6条 教員は、日常の勤務を通じ必要な研修を受けるものとする。

2 日常勤務を通した研修は、教員の監督者がその計画を策定、実施する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

【AIを活用したCADプログラムについての研修】

対象:専任教員(学科長、デジタル担当教員1名)

主催:DSデンタルヘルスグループ

内容:大手歯科技工所(DSデンタルスタジオ)が取り組んでいる、AIを用いたCAD設計プログラムについての講演。

期間:3月11日

企業研修に参加し学内にはない最先端のシステムの知識を深めている。

【スポーツ歯科医学会】

対象:専任教員(教務部長、スポーツ担当教員他1名)

主催:一般社団法人日本スポーツ歯科医学会

内容:スポーツ歯科の事例発表、研究発表など

期間:6月23日、24日

スポーツ歯学について業界の動向や最新の研究事例を習得し、コース別実習授業の内容を検討する際、参考にしている。

また、スポーツ技工コース授業での取り組みを事例発表している。発表内容については、学会員である歯科医師を顧問として招聘し、指導をして頂いている。

## ②指導力の修得・向上のための研修等

### 【特別講義：医療従事者とヒューマンコミュニケーション】

対象：教務部長、学科長

主催：全国歯科技工士学校教育協議会（演者 元鳥取大学医学部准教授・特認教授 高塚人志先生）

内容：医療従事者に必要な患者とのコミュニケーションの取り方についての体験型授業。

期間：5月18日

医療人としてのコミュニケーション力を教育指導内容を検討するにあたり参考にしている。

### 【国家試験対策研修会】

主催：滋慶学園グループ 国家試験対策センター

内容：医療・福祉系国家試験の問題傾向と合格対策について、報告と事例発表など

期間：7月14日

国家試験の最新の結果と問題傾向を検証結果を情報収集し、国家試験全員合格に向けての対策を検討する際の参考にする。

### （3）研修等の計画

#### ①専攻分野における実務に関する研修等

##### 【CAD研修】※学内研修

対象：専任教員（全員）

講師：デジタルコース技工担当教員

内容：デジタル担当教員による研修。授業で使用している機器を使用し、CAD/CAMでの製作手順を学ぶ。

期間：必要に応じて不定期に実施。

企業先で研修した内容について、デジタル技工コース担当教員から専任教員全員に技術指導し、教員の技術レベルを向上

させる

#### ②指導力の修得・向上のための研修等

##### 【キャリアサポートアンケート勉強会】

対象：専任教員

主催：滋慶教育科学研究所

内容：学生の傾向と問題状況の読み取り方、学生指導への活用方法を学ぶ。

期間：6月29日

在校生の傾向を色々な側面から検証し、クラス運営やカウンセリングに活用する。

##### 【インラクティブティーチングフォーラム 第3回学びを促す評価（ループリック）】

対象：専任教員（授業改革担当教員1名）

主催：日本教育研究イノベーションセンター、東京大学大学総合教育研究センター

内容：初等～高等教育で用いている評価法を教材とし、専門家から助言をうけながら改善、実践法を学ぶ。

期間：6月3日、8月3日（開催予定）

「学習者の学びを促す」評価としてのループリックを、本校の評価法として活用していく。

##### 【ループリック評価法研修】※学内研修

対象：専任教員

講師：授業改革担当教員

内容：ループリック評価法を活用した授業評価の事例発表と作成

期間：必要に応じて不定期に実施予定

明確な評価を明示するため、すべての科目でループリック評価表を作成し活用法を学び実践につなげる。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

自己点検・評価結果について学校職員以外の関係者による評価を行うため、各校に学校関係者評価委員会を置く。評価委員会は、自己点検・評価結果の客観性・透明性を高め、学校の利害関係者の学校運営への理解促進や連携協力による学校運営の改善を目的とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受け入れ募集	学生の受け入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

高等学校の関係者より学校の重点的な取組であるアクティブラーニングについて高い評価を頂いた。

その評価を基に効果が見込まれる科目に展開できるよう段階的に取組むことになった。

卒業生代表より卒業生を対象にした生涯学習の充実について意見を頂いた。

その意見を基に同窓会と連携をして、若手の歯科技工士を対象にした実技セミナーを開催した。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
五十嵐 智	コレクトデザイン	平成30年4月1日～平成32年3月31日	卒業生
根目沢 順子	保護者	平成30年4月1日～平成32年3月31日	保護者
阿部 隆一	東星学園高等学校	平成30年4月1日～平成32年3月31日	高等学校
塩津 二郎	大田区蒲田歯科医師会	平成30年4月1日～平成32年3月31日	地域等委
今井 久二	和田精密歯株式会社	平成30年4月1日～平成32年3月31日	企業等委

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)

URL:<http://www.dt.ntdent.ac.jp>

平成30年7月末日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

歯科業界の動向や最新の技術について情報提供していただき、カリキュラムの見直しを図る。

また、学生の進路決定や将来の目標設定させる際の参考とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2)各学科等の教育	各学科等の教育
(3)教職員	教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	学校評価
(10)国際連携の状況	国際連携の状況
(11)その他	その他

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL:<http://www.dt.ntdent.ac.jp>

## 授業科目等の概要

(歯科技工士専門課程歯科技工士学科Ⅱ部) 平成30年度											
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法		場所	教員	企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習			
○			歯科英語	歯科に関係する英単語を中心とした歯科英語について学ぶ。	1年次後期	15	1	○		○	○
○			英会話入門	基本的な日常英会話やトラベル英会話について学ぶ。	1年次前期	15	1	○		○	○
○			造形美術概論	歯や歯列のデッサンを通して、形態のとらえ方や、立体的な形態の表現法について学ぶ。	1年次前期	15	1	○		○	○
○			歯科技工士関係法規	「歯科技工士」として業務を行うために必要な「歯科技工士法」とその関連法規について学ぶ。	3年次前期	15	1	○		○	○
○			歯科技工学概論	歯科医療に関する全般的な知識や歯科技工の重要性・歯科技工物についての概要を学ぶ。	1年次前期	16	1	○		○	○
○			キャリアデザインⅠ	様々な臨床現場や歯科技工の働き方を知り将来像を明確にする。また、就職活動に必要な履歴書の書き方、職場見学のマナーを学び実践する。	2年次前期	18	1	○		○	○ ○ ○
○			キャリアデザインⅡ	卒業生講演や就職講座を通して現場で求められる歯科技工士像を明確にし、卒業後の進路決定の参考にする。	3年次前期	16	1	○		○	○ ○ ○ ○
○			歯科理工学基礎Ⅰ	歯科材料全般の所要性質をはじめ、印象材、石膏、ワックス、レジンの基本的な性質、成形法について学ぶ。	1年次前期	30	2	○		○	○
○			歯科理工学基礎Ⅱ	金属の特性、歯科用金属材料の性質および加工法について学ぶ。	1年次後期	30	2	○		○	○
○			歯科理工学基礎Ⅲ	歯科鋳造に必要な歯科材料、器械・器具等の基本的な性質、使用法および技工操作について学ぶ。	2年次前期	30	2	○		○	○ ○
○			デジタル歯科技工概論Ⅰ	各メーカーのCAD/CAMシステムを知り、最先端のデジタル歯科技工技術についての基本を学ぶ。	2年次前期	15	1	○		○	○ ○ ○
○			デジタル歯科技工概論Ⅱ	各技工所におけるCAD/CAMシステムの活用を知り、デジタル歯科技工技術の現状について学ぶ。	2年次後期	15	1	○		○	○ ○ ○

○		歯科理工学総合	金属、高分子、セラミックス、複合材料などの性質・成形法について総合的に復習する。	3年次 前期	15	1	○			○	○	○	○
○		歯科材料加工実習 I	研究用模型、作業用模型の製作や口蓋板の製作を通して、石膏・ワックス・常温重合レジンの取扱い方について学ぶ。	1年次 前期	30	1			○	○		○	○
○		歯科材料加工実習 II	金属や加熱重合レジンの加工法と研磨方法について学ぶ。	1年次 前期	30	1			○	○		○	○
○		デジタル歯科技工実習	CAD/CAMなどの最先端のデジタル歯科技工技術について学ぶ。また、CAD/CAM操作を体験し、デジタル歯科技工に対応できる現場力を養う。	3年次 前期	30	1			○	○		○	○
○		歯の解剖学基礎	歯についての概説と永久歯の形態的特徴を学ぶ。	1年次 前期	45	3	○			○		○	
○		歯の解剖学応用	口腔内や頭部の骨、筋、顎関節、神経など口腔解剖と歯の発生について学ぶ。	2年次 後期	30	2	○			○		○	
○		歯の解剖学総合	歯の組織・歯周組織について学び、永久歯、口腔解剖、発生について総合的に復習する。	3年次 前期	15	1	○			○		○	
○		歯型彫刻基礎 I	歯型彫刻に必要なノギス、切り出しナイフの使い方を理解し、上顎右側前歯部の面取りの手順について学び繰り返し実践する。	1年次 前期	30	1			○	○		○	○
○		歯型彫刻基礎 II	上顎右側第一大臼歯の面取り、荒彫り、仕上げ彫りの手順について学び繰り返し実践する。	1年次 前期	30	1			○	○		○	○
○		顎口腔機能学基礎	歯を取り巻く顎口腔系についてと顎の動きについて学ぶ。	1年次 後期	15	1	○			○		○	
○		顎口腔機能学応用	顎の動きに調和した咬み合わせや技工物製作に使用する咬合器について学ぶ。	2年次 前期	15	1	○			○		○	
○		顎口腔機能学実践	フェイスボウトランスマーカーを体験し、半調節性咬合器の取扱い方について学ぶ。	1年次 後期	30	1			○	○		○	○
○		部分床義歯技工学	部分床義歯(部分入れ歯)の製作に関する基礎知識から応用まで理論を学ぶ。	1年次 後期	45	3	○			○		○	
○		全部床義歯技工学	全部床義歯(総入れ歯)の製作に関する基礎的知識及びその応用まで理論を学ぶ。	2年次 後期	45	3	○			○		○	
○		有床義歯技工学総合	金属床義歯の製作について学び有床義歯技工学を総合的に復習する。	3年次 前期	20	1	○			○		○	
○		部分床義歯基礎実習 I	クラスプトレーニングを通して、サベーヤーの使用方法やクラスプの製作手順について学ぶ。	1年次 後期	30	1			○	○		○	○

○		部分床義歯基礎実習 II	パラタルバーや铸造鉤の製作を通して、維持装置の製作についての基本的な知識や技術について学ぶ。	1年次後期	30	1			○ ○	○ ○	○ ○	
○		部分床義歯基礎実習 III	部分床義歯(部分入れ歯)の人工歯排列や歯肉形成の製作を通して、それらの製作に関する理論と技術について学ぶ。	1年次後期	30	1			○ ○	○ ○	○ ○	
○		部分床義歯基礎実習 IV	加熱重合法と流し込み法による部分床義歯の製作を通して、それらの製作に関する理論と技術について学ぶ。	1年次後期	30	1			○ ○	○ ○	○ ○	
○		部分床義歯基礎実習 V	部分床義歯用の個人トレーや咬合床の製作を通して、部分床義歯の製作に関する理論と技術について学ぶ。	2年次後期	30	1			○ ○	○ ○	○ ○	
○		全部床義歯基礎実習 I	全部床義歯(総入れ歯)の人工歯排列法に関する理論と技術について学ぶ。	2年次後期	30	1			○ ○	○ ○	○ ○	
○		全部床義歯基礎実習 II	全部床義歯(総入れ歯)の歯肉形成法に関する理論と技術について学ぶ。	1年次後期	30	1			○ ○	○ ○	○ ○	
○		全部床義歯基礎実習 III	全部床義歯(総入れ歯)の製作を通して、それらの製作に関する理論と技術について学ぶ。	1年次後期	30	1			○ ○	○ ○	○ ○	
○		有床義歯応用実習 I	金属床義歯の製作を通して、製作手順について学ぶ。	3年次前期	30	1			○ ○	○ ○	○ ○	
○		有床義歯応用実習 II	金属床義歯の製作を通して、それらの製作に関する理論と技術について学ぶ。	3年次前期	30	1			○ ○	○ ○	○ ○	
○		有床義歯総合実習	全部床義歯の人工歯排列～歯肉形成の反復トレーニングを行い、全国歯科技工士教育協議会実技評価試験の合格を目指す。	3年次後期	30	1			○ ○	○ ○	○ ○	
○		歯冠修復技工学基礎	虫歯などで削られた患者さんの歯に合った歯科技工物の要件、製作順序、インレー、全部金属冠等について学ぶ。	1年次前期	30	2	○		○	○	○	
○		歯冠修復技工学応用	歯科技工物の製作順序、硬質レジン前装冠について学ぶ。また、歯を喪失した場合の歯冠修復物であるブリッジ等について学ぶ。	2年次前期	46	3	○		○	○ ○	○ ○	
○		歯冠修復技工学総合 I	陶材(ポーセレン)の取り扱い方、陶材焼付金属冠等について学ぶ。また、歯冠修復技工学について総合的に復習する。	3年次前期	22	1	○		○	○	○	

○		歯冠修復技工学総合Ⅱ	模擬試験の解説講義を通して、歯冠修復技工学を総合的に復習する。	3年次後期	12	0	○			○	○		
○		スポーツ歯学概論	スポーツや運動が頸・顔面・口腔領域において及ぼす影響について学び、外傷、障害を予防するためのマウスガードについて学ぶ。	2年次前期	15	1	○			○	○	○	
○		臨床歯科技工学	臨床現場で必要とされる知識、技術について総合的に学ぶ。	3年次前期	15	1	○			○	○	○	
○		歯冠修復基礎実習Ⅰ	上顎第一大臼歯のワックスアップの手順と基本的な技術について学ぶ。	1年次前期	30	1			○	○	○	○	
○		歯冠修復基礎実習Ⅱ	全部金属冠のスブルーイングから研磨について学ぶ。また、圧接法によるインレーのワックスアップについて学ぶ。	1年次前期	30	1			○	○	○	○	
○		歯冠修復基礎実習Ⅲ	盛り上げ法によるインレーの製作や臨床的な分割復位式模型の製作を通して、間接法についての理解を深め基本的な技術について学ぶ。	1年次前期	30	1			○	○	○	○	
○		歯冠修復応用実習Ⅰ	臨床複模型を用いて様々な模型製作法やメタルコアの製作法について学ぶ。	2年次前期	30	1			○	○	○	○	
○		歯冠修復応用実習Ⅱ	実力確認試験(分割復位式模型の製作)や全部金属冠の製作を通して実践力を養う。	2年次前期	30	1			○	○	○	○	
○		歯冠修復応用実習Ⅲ	ブリッジの製作を通して多数歯のワックスアップの考え方やポンティックの基底面形態について学ぶ。	2年次前期	30	1			○	○	○	○	
○		歯冠修復応用実習Ⅳ	ブリッジの製作を通して連結部の考え方や鑲付け法に関する理論と技術について学ぶ。	2年次前期	30	1			○	○	○	○	
○		セラミック加工基礎実習Ⅰ	陶材焼付金属冠の製作を通して、窓開けの手順やメタルフレームの製作について学ぶ。	3年次前期	30	1			○	○	○	○	
○		セラミック加工基礎実習Ⅱ	陶材焼付金属冠の製作を通して、ポーセレンの取り扱い方について学ぶ。	3年次前期	30	1			○	○	○	○	
○		歯冠修復総合実習	全部金属冠の製作過程であるワックスアップの反復トレーニングを行い、全国歯科技工士教育協議会実技評価試験の合格を目指す。	3年次後期	30	1			○	○	○	○	
○		矯正歯科技工学総論	矯正治療の概要を理解し、正常咬合と不正咬合、矯正歯科技工を行う上で必要な理論や基本的な手技について学ぶ。	2年次後期	15	1	○			○	○	○	
○		矯正歯科技工学各論	各種矯正装置の役割や製作順序について学び、歯や顎骨をどのように移動させるかを理解する。	2年次後期	15	1	○			○	○	○	

○		小児歯科技工学総論	小児の顎・顔面の成長発育の特徴を理解し、小児の歯・歯列の成長発育について学ぶ。	1年次後期	15	1	○			○	○	○	○
○		小児歯科技工学各論	小児歯科で用いられる歯冠修復物や各種咬合誘導装置について学ぶ。	1年次後期	15	1	○			○	○	○	○
○		歯型彫刻基礎III	下顎右側第一大臼歯の面取り、荒彫り、仕上げ彫りの手順について学び、繰り返し実践する。	1年次前期	30	1				○	○	○	○
○		歯型彫刻基礎IV	上顎左側前歯の面取り、荒彫り、仕上げ彫りの手順について学び繰り返し実践する。	1年次後期	30	1				○	○	○	○
○		小児歯科技工実習	クラウンループ等の製作を通して、小児歯科技工に必要な基本的な製作技術と小児歯科治療の要点を学ぶ。	1年次後期	30	1				○	○	○	○
○		歯型彫刻応用 I	見本模型を見なくても歯の形態的特徴を表現できるようにデッサン・歯型彫刻の技術を高める。	2年次前期	30	1				○	○	○	○
○		歯冠修復応用実習 V	ブリッジやレンジ前装冠の製作を通して、窓開けの手順や硬質レジンの取扱い方について学ぶ。	2年次前期	30	1				○	○	○	○
○		歯科技工実習応用 I	臨床複模型を使用した実力確認試験(全部金属冠の製作)で実践力、臨床力を養う。	2年次前期	30	1				○	○	○	○
○		歯科技工実習応用 II	全部金属冠のワックスアップの反復トレーニングを通して基礎技術力を向上させる。	2年次前期	30	1				○	○	○	○
○		歯科技工実習応用 III	全国歯科技工士教育協議会実技評価試験用の模型製作や実習トレーニングを行う。	2年次後期	30	1				○	○	○	○
○		歯型彫刻応用 II	見本模型を見なくても歯の形態的特徴を表現できるようにデッサン・歯型彫刻の技術を高め、スピードアップを目指す。	2年次後期	30	1				○	○	○	○
○		矯正歯科技工実習	矯正装置の製作を通して、矯正技工に必要な基本的な製作技術と矯正治療の流れを学ぶ。	2年次後期	30	1				○	○	○	○
○		セラミック加工応用実習	マージンボーセレン及び内部ステインテクニックで、審美的な陶材焼付金属冠を作成する。	3年次前期	30	1				○	○	○	○
○		歯科技工実習総合 I	実習トレーニングで使用する模型の準備をする。また、実技評価試験、国家試験(実地試験)の合格を目指してトレーニングを行う。	3年次前期	30	1				○	○	○	○
○		課題研究実習 I	今までに習得した知識・技術を結集して卒業課題研究作品を作成し、自主的に調べ計画して実行する力を養う。	3年次前期	30	1				○	○	○	○
○		課題研究実習 II	卒業課題研究作品やレポートを完成させることにより歯科技工士としての専門性を磨き、各自の得意分野を伸ばす。	3年次後期	30	1				○	○	○	○

○		歯型彫刻総合	国家試験(実地試験)の合格を目指して、歯型彫刻トレーニングを繰り返し行う。	3年次後期	30	1			○ ○	○ ○	○ ○	
○		歯科技工実習総合Ⅱ	実習トレーニングで使用する石膏棒等の準備をする。また、実技評価試験、国家試験(実地試験)の合格を目指してトレーニングを行う。	3年次後期	30	1			○ ○	○ ○	○ ○	
○		歯科技工実習総合Ⅲ	実習トレーニングで使用する石膏棒等の準備をする。また、国家試験(実地試験)の合格を目指してトレーニングを行う。	3年次後期	40	1			○ ○	○ ○	○ ○	
○		総合歯科技工学Ⅰ	歯科技工士として必要な総合的な基礎力を習得するために、主要科目(有床・修復・理工等)の模擬試験及び解説講義を行い、国家試験合格を目指す。	2年次後期	30	2	○		○	○ ○	○ ○	
○		総合歯科技工学Ⅱ	歯科技工士として必要な総合的な基礎力を習得するために、顎口腔・矯正・小児等の模擬試験及び解説講義を行い、国家試験合格を目指す。	3年次前期	30	2	○		○	○	○	
○		総合歯科技工学Ⅲ	模擬試験及び解説講義を行い、歯科技工士として必要な総合的な基礎力・応用力を習得し統一模擬試験の合格を目指す。	3年次後期	30	2	○		○	○	○	
○		総合歯科技工学Ⅳ	解説講義や科目別復習講義を通して、歯科技工士として必要な知識を習得し国家試験合格を目指す。また、模擬試験、卒業見込認定試験(出願判定試験)を行う。	3年次後期	30	2	○		○	○	○	
○		総合歯科技工学Ⅴ	解説講義や科目別復習講義を通して、歯科技工士として必要な知識を習得し国家試験合格を目指す。また、模擬試験、卒業認定試験を行う。	3年次後期	30	2	○		○	○	○	

○			総合歯科技工学VI	科目別復習講義を通して、歯科技工士として必要な知識を習得し国家試験合格を目指す。また、卒業認定試験を行う。	3年次 後期	30	2	○			○	○	○		
○			総合歯科技工学VII	模擬試験及び解説講義を行い、歯科技工士として必要な知識を習得し国家試験の合格を目指す。	3年次 後期	20	1	○			○	○	○		
合計				82	科目	2205時間( 100単位)									

卒業要件及び履修方法			授業期間等	
学年ごとに必須単位数を修得し進級する。			1学年の学期区分	前期・後期
			1学期の授業期間	26週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。